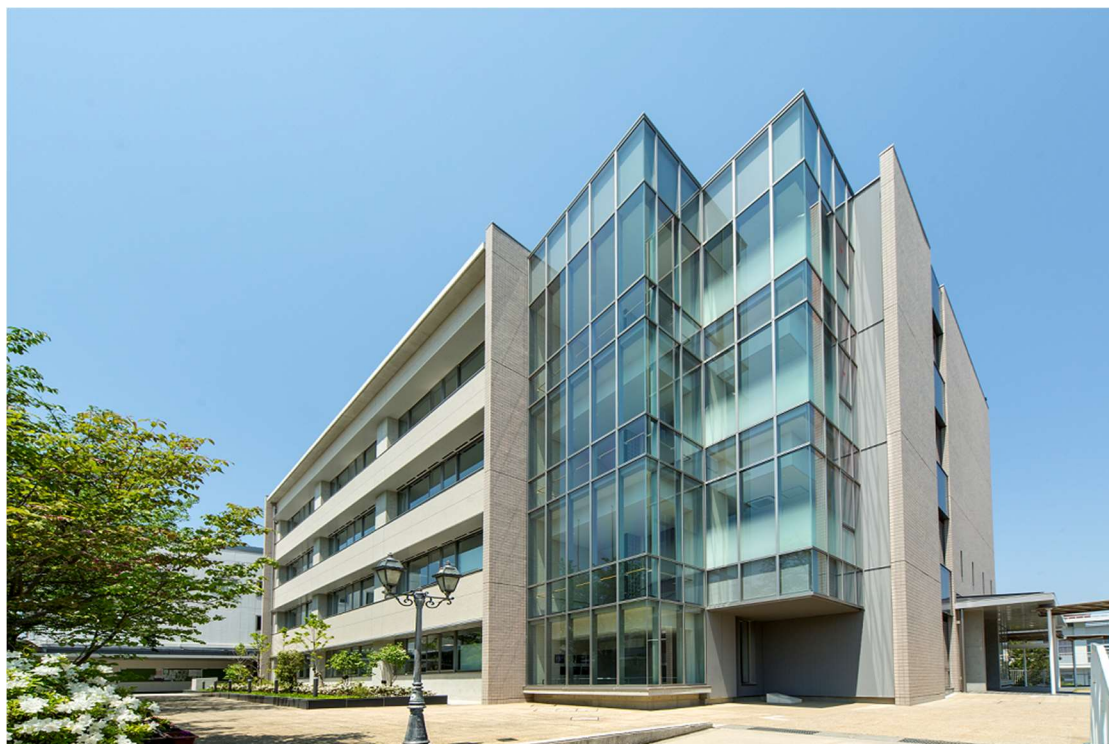




令和6年度

学校評価報告書

帝塚山中学校 高等学校



学校法人 帝塚山学園

令和6年度学校評価について

帝塚山中学校・帝塚山高等学校は、令和6年度の教育活動及びその他の学校運営の状況について、学校評価を実施しました。

学校評価は、本校生徒とその保護者、卒業生を対象とした各アンケート結果、保護者等との懇談会で寄せられた御意見等を活用の上自ら評価を行い、さらにその結果について学校関係者による評価を行いました。

このたびの結果を踏まえ、更なる教育水準の向上を目指して、教育活動及び学校運営の改善工夫に組織をあげて継続的に取り組んでいく所存です。

帝塚山中学校・帝塚山高等学校
校長 小林 健

令和6年度 学校評価

1. 総括

学 校 名	帝塚山中学校・高等学校
建学の精神	社会に有為な人材を育成する
重点目標 (教育目標)	総合的な人間力の育成と進学実績の向上
前年度の成果と課題	[成果] I C T環境の整備を進めた結果、I C T機器を活用した授業は着実に増加した。ICT委員会やDX研修会で様々な授業改革や、AIドリルの選定、グーグルクラスルームの使い方の研究を行った。また令和5年度には、全学年（中学2年生以上の生徒にクロムブック、中1にはiPad）端末の導入が完了した。生徒同士が共同して取り組む課題を与えやすくなり、発表の場も増加しつつある。また、新型コロナウイルス感染症感染も5類に移行するに従い、行事も再開している。中高分けて実施した体育祭は、高校は悪天候のため実施できなかったものの、中学では中高同時開催の時よりも生徒の出番が増え、好評であった。なお、様々なプログラムを実施している特色教育については、グローバルキャリア教育として、中学3年生には、グローバルキャリア講演会、3月にはサイエンスキャンプなどの海外プログラムを3年ぶりに実施することができた。海外交流も全て復活した。 [課題] 生徒や保護者に負担をかけたコロナ禍での様々な制限を解除した。行事などもコロナ禍前に戻し、全生徒の生活がのびのびとしたものになるように心掛けたい。また、コロナ禍での制限で、保護者に学校の活動に参加してもらえる機会も極めて少なかった。それは保護者の不満ともなっていた。さまざまな学校行事への保護者の参加を求め、学校の情報を積極的に公開するように努める。特に今年はコーラスコンクールも復活した。非常にレベルの高いものであった。2027年度よりの高校共学化についても、丁寧かつ迅速に準備を進めながら、中学校高等学校の経営の安定化を推進したい。

2. 自己評価

評価は4段階【A：十分である（よくできた）、B：ほぼ十分である（できた）、C：あまり十分でない（あまりできなかった）、D：改善を要する（できなかった）】

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
1 建学の理念に基づく教育目標・教育計画の共有化	① 全教職員に、本校の教育目標及び教育内容を伝える。 (年度始め合同職員会議資料)	A		① 年度始めの合同職員会議で学校経営方針を全教職員で共有するとともに、それに基づいた各分掌の計画を確認した。	① 全教職員に、本校の教育目標及び教育内容を伝える。
	② 令和9年度からの男女共学化をふまえ、スクールミッション及びスクールポリシーを策定する。 (各ポリシー策定)	B	A	② 管理職会で、本校の現状と課題等について協議を行い、今後、目標をわかりやすく明確な表現にすることで、3つのポリシー(育成を目指す資質・能力に関する方針(グラデュエーション・ポリシー)、教育課程の編成及び実施に関する方針(カリキュラム・ポリシー)、入学者の受入れに関する方針(アドミッション・ポリシー))を策定し、次年度学校のホームページ上に公開するよう準備した。	② 令和9年度からの男女共学化をふまえ、スクールミッション及びスクールポリシーを公開し運用する。
2 教職員の資質及びスキルの向上を図る研修の実施	①-1 生徒指導研修会を実施する。 (研修会実施内容及び実施回数)	A		①-1 合同職員会議後の第1回生徒指導研修会(4/10)において、いじめ基本方針に関する組織的な対応についての確認・教育講演として生駒総合法律事務所より講師をお招きして講演をいただいた。教員向けアンケートより、満足度84%以上であった。	①-1 生徒指導研修会を実施する。特に「いじめ問題」についての研修を継続して行う。
	①-2 進路指導研修会を実施する。 (研修会議事録)	A		①-2 10月に進路指導研修会を実施した。	①-2 進路指導研修会を実施する。
	①-3 教育相談研修会を実施する。 (研修会資料)	A	A	①-3 本校のスクールカウンセラーが「配慮を要する生徒への指導と支援について～合理的配慮の観点から～」という題で、教職員に向けて講演を行った。	①-3 教育相談研修会を実施する。
	①-4 人権教育研修会を実施する。 (研修会実施内容及び実施回数)	A		①-4 奈良育英中高の教員をお招きし、ヘイト発言に対する対応策についての研修を実施した。	①-4 人権教育研修会を実施する。
	①-5 救急救命研修会を実施する。 (研修会資料)	A		①-5 全教職員が参加のもと、救命救急講習会を実施した。	①-5 救急救命研修会を実施する。
	② 教職員の資質及びスキルを高めるため、校外の研修にも積極的に参加する。 (校外研修の参加人数(100人以上))	A		② 奈良県高等学校人権教育研究会・奈良市人権教育研究会・奈良県私立学校人権教育推進協議会・奈良県外国人教育研究会等の研修会へ参加した。	② 教職員の資質及びスキルを高めるために、校外の研修会にも積極的に参加する。
3 教科指導の充実強化	① 引き続き、ICT委員会で各教科別にアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改革を協議を踏まえ実践する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度80%以上)	B	B	① ICT教育の推進に関して情報交換を行い、各教科で推進した。ICTを利用した教具・教材は、教員ドライブで共有し、授業担当者の教材作成の負担を分散した。また、担当者による授業内容の差をなくした。保護者アンケートの満足度は70%。	① 引き続き、ICT委員会で各教科別にアクティブ・ラーニングの視点を踏まえた授業改革を協議を踏まえ実践する。
	② 授業、ホームルーム、個人面談、保護者会でのICT機器の活用を推進する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度75%以上)	B		② 学校評価アンケートの満足度は57%。授業だけでなく、個別面談では、電子黒板とタブレットを使い、生徒が保護者と担任にプレゼンテーションを行った。保護者会でICT機器を用いた説明を行った。	② 授業、ホームルーム、個人面談、保護者会でのICT機器の活用を推進する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
3 教科指導の充実強化	③ 中学1年生～高校2年生を対象に、AIDリルとして、Qubena(5教科)とMonoxerを利用する。また、Classroomによるデジタル課題を利用する。 (情報端末の利用に関するアンケートにおける満足度75%以上。AIDリルの各月利用率90%以上)	B	B	③ 情報端末を導入した全クラス(全学年)において、授業ごとのポータルサイト(Classroom)を作成し、連絡手段として活用した。AIDリルについての利用率は少し上昇した。	③ 中学1年生～高校2年生を対象に、AIDリルとして、Qubena(5教科)とMonoxerを利用する。また、Classroomによるデジタル課題を利用する。
4 自主活動の充実強化	① スポーツ大会のほか、高校学園祭・中学文化祭の企画・運営をする。また、引き続き中学リーダー研修会を実施する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度75%以上)	B	B	① (高校)高校学園祭では、高校生学園祭実行委員に主体的に役割を持たせ、ケータリング業者と連携し、有意義な生徒会活動となった。保護者アンケートの結果から「学園祭」においては満足度75%以上を得ており、概ね目標は達成している。 (中学)今年度も、中学スポーツ大会は2つの外部施設にて男女に分かれて実施が出来た。中学リーダー研修会については、ISA(外部企業)と連携し、3学期に実施をした。保護者アンケートの結果から「文化祭」においては満足度55%程度。目標は達成出来ていない。	① スポーツ大会のほか、高校学園祭・中学文化祭の企画・運営をする。また、引き続き中学リーダー研修会を実施する。
	② クラブ活動と学習の両立を図る。 (育友会、体育文化後援会発行の「中学校・高等学校文化部・体育部活動記録」に記載して教職員、保護者に開示する。)	B		② (高校)文武両立に関しては満足度が60%弱であるものの、クラブ活動への満足度は80%程度を得ている。	② クラブ活動と学習の両立を図る。
5 人間力の育成	① 各ホームルーム担任が、教科書、その他の教材を用い、クラスの状況に応じて人権教育・道徳教育を実践する。 (授業展開資料、各クラス・グループでの発表資料)	A	A	① 各学年でその学年の状況に合わせて特色ある人権教育が実施できた。	① 各ホームルーム担任が、教科書、その他の教材を用い、クラスの状況に応じて人権教育・道徳教育を実践する。
	② 各学年推進委員と人権教育推進委員、管理職からなる委員会を定期的に実施する。 (人権通信に記載して教職員、保護者に開示する。)	A		② 人権教育推進委員会を定期的に開催した。新任教員対象の研修会も実施した。	② 各学年推進委員と人権教育推進委員、管理職からなる委員会を定期的に実施する。
6 キャリア教育、国際理解教育の充実強化	① キャリア教育、校外学習などを実践する。 (特色教育実施内容及び実施回数)	A		① 卒業生など、各分野の第一線で活躍するプロフェッショナルを招聘した講演会や出張講義を開催し、将来のキャリアイメージ構築の一助とした。また、コース毎学年ごとの校外学習を実施した。	① キャリア教育、校外学習などを実践する。
	② シアトル海外研修、男子ハワイ・サイエンスキャンプ、女子サンディエゴ・STEAMプログラムの内容を充実させる。高校1年生の帝塚山エンパワープログラム及び高校2年生のボストン研修を実施する。 (各プログラムでの参加人数(30人以上)、ボストン研修実施報告書、帝塚山エンパワープログラムアンケート報告書)	A	A	② 海外研修プログラムはすべて既定の参加人数以上で実施することができた。内容も従来より高いレベルでの教育活動を取り入れた。帝塚山エンパワープログラムについても今年度は多くの参加者があり、充実した内容で実施できた。	② シアトル海外研修、男子ハワイ・サイエンスキャンプ、女子サンディエゴ・STEAMプログラムの内容を充実させる。高校1年生の帝塚山エンパワープログラム及び高校2年生のボストン研修を実施する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
	③ グローバルキャリア発表会、講演会を継続実施する。 (発表資料、講演資料)	A	A	③ 外部から講師を招聘し、年5回の講演会を実施した。内、2回は対面で3回はオンライン形式であった。	③ グローバルキャリア発表会、講演会を継続実施する。
7 規範意識と自律性の育成	①-1 いじめアンケート及び生徒規程の点検を継続実施する。 (学校評価アンケートで「生徒指導:生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果をあげている。」とする回答の割合。(目標値:80%))	B		①-1 月1回の情報交換会並びにいじめアンケートを年2回実施することにより、早期発見早期対応が可能となり、ある一定の成果はあげている。また、生徒規程の点検も継続的に行っており、【制服の移行期間廃止】【休日等のクラブジャージでの登校】などでは保護者からも一定の評価を受けている。保護者アンケート、生徒規程に関する項目での満足度68.9%。目標値より多少下回る。	①-1 いじめアンケート及び生徒規程の点検を継続実施する。
	①-2 中学校朝礼、アセンブリを通じて生徒指導を実施する。 (学校評価アンケートで「生徒指導:生徒指導は充実しており、規範意識と自律性の育成に十分な成果をあげている。」とする回答の割合。(目標値:80%))			①-2 (高校)アセンブリを適宜実施し、効果的な指導成果をあげている。部活動の表彰も適宜実施出来た。 ①-2 (中学)毎週月曜日に朝礼を実施し、帰属意識、規範意識を高めた。また他者理解、自己・他者肯定を深める場として効果が今後も期待出来る。部活動の表彰も適宜実施出来た。	①-2 中学校朝礼、アセンブリを通じて生徒指導を実施する。
	②-1 月に1度、各学年の不登校生徒などの情報交換会を実施する。 (学校評価アンケートで「生徒指導:学校・担任は、個々の生徒の性格や諸事情に配慮した指導の実現に向けて努力している。」とする回答の割合。(目標値:80%))	A	A	②-1 月に1度、生徒の登校状況や相談事案、保健室利用状況などについて、基本的にスクールカウンセラーも入って中高別に情報交換会を実施した。	②-1 月に1度、各学年の不登校生徒などの情報交換会を実施する。
	②-2 スクールカウンセラーによるカウンセリングを通して、家庭環境や生育歴などの背景を把握し、心理学的な観点から個別・学年・全校を対象にサポートを強化する。 (カウンセリング・コンサル・講演会・情報紙発行等の実施状況)			②-2 スクールカウンセラーによる相談活動によって心理学的観点からのサポートを行った。また、中学1年生に対してはアンガーマネージメントを、中学3年生に対してはいのちの大切さをテーマとしたスクールカウンセラーによる講演会を実施した。このほか、スクールカウンセラーのコラムや相談機関の紹介などを掲載した「教育相談室だより」を各学期に2回発行し、生徒や保護者に情報提供を行った。	②-2 スクールカウンセラーによるカウンセリングを通して、家庭環境や生育歴などの背景を把握し、心理学的な観点から個別・学年・全校を対象にサポートを強化する。
8 進路指導の充実強化	①-1 保護者、生徒対象に進路指導講演会を実施する。 (進路状況報告書)	A	A	①-1 高3保護者会で進路指導部長、中学保護者会(希望者)で外部講師(駿台・近畿営業部)より入試情報や進学情報について講演し情報の共有を図った。また、生徒対象については高1・2・3年で各2回進路に関するアセンブリや外部講師による講演会を実施した。	①-1 保護者、生徒対象に進路指導講演会を実施する。
	①-2 現役生徒、過年度生の進路状況と在校時の成績とひも付けて分析する。 (進路状況報告書、難関国公立50名以上)			①-2 難関国公立(京都大、大阪大、神戸大、国公立大)合格者数は合計69名で目標に到達した。	①-2 現役生徒、過年度生の進路状況と在校時の成績とひも付けて分析する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
	①-3-1 教務部、進路指導部が中心となり各種入試分析会への参加と情報の共有化を行い、令和7年度大学入試に向けた校内分析会を行う。また、学年会・教科会とも連携を密にし、学校全体で難関大学合格など生徒の進路実現にむけた進路指導体制の構築を目指す。(令和7年度大学入試への対策)	A	A	①-3-1 進路指導研修会では進路指導部長・副部長による実績の現状報告や情報の取扱い、推薦の考え方など最新の入試トピックについての共有を行った。加えて、各種研究会への案内は定期的にメールにて周知して自主研修を働きかけた。	①-3-1 教務部、進路指導部が中心となり各種入試分析会への参加と情報の共有化を行い、令和8年度大学入試に向けた校内分析会を行う。また、学年会・教科会とも連携を密にし、学校全体で難関大学合格など生徒の進路実現にむけた進路指導体制の構築を目指す。
	①-3-2 大学入試に向けたセミナー講座の設置及び効果的な実施を各教科で検討し、講座内容を決定する。(大学入試セミナー講座内容及び受講人数(目標値70%以上))	A		①-3-2 教科主任を中心にセミナー講座の設定についての検討を重ね、学年主任やコース部長による確認・議論を経て適切な講座内容を決定した。また、京大対策講座「おけいはん」、基礎対策講座「ひのとり」、推薦対策講座など新しい枠組みを作り運営した。	①-3-2 大学入試に向けたセミナー講座などの設置及び効果的な実施を各教科で検討し、講座内容を決定する。
9 教員評価・教育成果の検証	①-1 保護者アンケートを実施し、アンケート結果のうち60%以下の項目について対応する等、その結果を積極的に活用する。(学校評価アンケートの該当項目での満足度(目標値:80%))	A		①-1 6月に2、3年生の保護者アンケートを実施した。集計結果をまとめ11月の保護者会で報告した。いずれの学年も、総合的満足度を尋ねた項目では、肯定回答が80%前後あり、概ね本校の教育を評価していただいている結果となった。	①-1 保護者アンケートを実施し、アンケート結果のうち60%以下の項目について対応する等、その結果を積極的に活用する。
	①-2 Classroomを用いた新たな授業アンケートを開発し、実施する。(授業アンケート結果における満足度75%以上)	B	A	①-2 全員とは言えないが、利用できる教員から授業アンケートのデジタル化を行った。今後も進めていきたい。	①-2 Classroomを用いた新たな授業アンケートを開発し、実施する。
	①-3 重点目標を踏まえた自己評価結果に基づき、教員評価を実施する。(教員評価結果)	A		①-3 自己評価をGoogleフォームを使って実施した。そのことにより、記入量が増え、自己の分析につながった。	①-3 重点目標を踏まえた自己評価結果に基づき、教員評価を実施する。
10 各学校との連携強化	① 勉強合宿や共通テスト自己採点などで適切に大学施設を利用する。また併設校特別推薦の告知を徹底し、大学の入試広報課と連携をとって内部進学率向上を図る。(進路状況報告書)	B		① 高2女子を対象とした勉強合宿で大学と連携を取り、東生駒キャンパスの施設を利用して実施した。46名が参加し、20名ほどの卒業生が運営を手伝った。また併設校特別推薦の告知を徹底し、大学の入試広報課と連携をとって内部進学率向上を図った。合格者数は3名であり、進学率そのものは、昨年度3名から1名と減少している。	① 勉強合宿や共通テスト自己採点などで適切に大学施設を利用する。また併設校特別推薦の告知を徹底し、大学の入試広報課と連携をとって内部進学率向上を図る。
	② 「小中内部進学推薦制度」により、内部小学校からの進学者の増加を図る。(内部進学率の増加(60%以上))	B	A	② 内部進学率については、男子43%、女子52%となり、目標に達しなかった。	② 「小中内部進学推薦制度」により、内部小学校からの進学者の増加を図る。
	③ 国公立大学との連携を密に行い、キャンパスツアー等を計画し、生徒への参加を促す。(進路状況報告書)	A		③ 京都大学、大阪大学、神戸大学へのオープンキャンパスを企画し、引率した。京都大学では、大学の入試課と連携し、100名収容の講義室を借り、卒業生20名ほどに協力してもらい実施した。	③ 国公立大学との連携を密に行い、キャンパスツアー等の実施を計画し、生徒への参加を促す。
11 組織運営の充実強化	①-1 毎週1回運営委員会を実施する。(議事録)	A		①-1 月曜日の3限に定期的に校務分掌長・コース部長・学年主任からなる運営委員会を開催し、学校運営の強化を図った。	①-1 毎週1回運営委員会を実施する。
	①-2 各教科、ICT教育、アクティブラーニング等、教育内容の研修を行う。(授業アンケート結果における満足度75%以上)	A	A	①-2 AIドリルの研修会(DX研修および国数社理の教科会)を実施した。	①-2 各教科、ICT教育、アクティブラーニング等、教育内容の研修を行う。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
12 安全管理・保健管理の実施	①-1 救命救急講習会を充実させる。救命救急医による研修及び消火訓練の実技研修を行う。 また、学校危機管理に関する研修およびさまざまな感染症に対する研修を行う。 (救命救急講習会の実施内容及び研修回数)	A	A	①-1 非常勤講師を含む全教員に救命救急講習を実施。非常勤講師に関しては、新年度の最初に行うとともに、専任教員のうち、任用3年目までの教員は、新任研修として2時間の講習を実施。その他教員は第1回定期考査中に実施し主な学校行事の実施前に行った。	①-1 救命救急講習会を充実させる。救命救急医による研修及び消火訓練の実技研修を行う。 発災に備えて、発災時の緊急体制の構築と学校危機管理に関する研修およびさまざまな感染症に対する研修を行う。
	①-2 教室の配置をもとに緊急時の避難経路の見直しと避難経路を再考する。クラス人数をもとに最適な避難経路を検討する。 雨天時等のグランドへの避難が困難な場合等の最適な避難場所を検討し、避難訓練を実施する。 (避難訓練実施報告書)	A		①-2 今年度は発災時後の交通網の状況等をもとにしたワークシートで、個々の生徒が自宅までの帰宅経路を確認。また、発災時の家族との連絡方法なども確認し、家族間の共有をはかった。	①-2 教室の配置をもとに緊急時の避難経路の見直しと避難経路を再考する。クラス人数をもとに最適な避難経路を検討する。 雨天時等のグランドへの避難が困難な場合等の最適な避難場所を検討し、避難訓練を実施する。
	②-1 健康診断を通じた保健指導を行う。 ②-2 学年旅行における食物アレルギー事故防止に努める。 ②-3 保健教育講演会を実施する。 (学校評価アンケートの該当項目での満足度80%以上)	A		② 健康診断を通じた保健指導の一環として、全生徒にアレルギー情報を報告させ教員への周知を行った。また、学年旅行における食物アレルギー事故防止のため、担任へのアレルギー情報などの確認、情報共有の徹底により、救急搬送もなく行事を終えることができた。保健教育講演会については、高3を除く全学年で実施した。	② 健康診断を通じた保健指導を行うとともに、学年旅行における食物アレルギー自己防止に努める。また、保健教育講演会を実施する。
13 入試及び募集活動の強化	① 募集対策担当教員による関係機関との情報交換を密にする。 (出願者数(中学校目標値:1,800名、高校目標値:800名))	B	A	①-1 中学出願者数は1,604名(昨年より201名減)となり、目標値を達成できなかった。高校出願者数は923名(昨年より37名減)となったが、目標値を達成した。	① 募集対策担当教員による関係機関との情報交換を密にする。
	②-1 クラブ活動など生徒の様子を多く紹介し、ホームページの充実を図り、アクセス数を維持する。 (ホームページアクセス数(目標値:20万件))	A		②-1 クラブ活動や特色教育の内容を多く紹介出来た。新しくInstagramを立ち上げた。	②-1 クラブ活動など生徒の様子を多く紹介し、ホームページの充実を図り、アクセス数を維持する。
	②-2 説明会・各ブース等で本校教育内容の理解を深めてもらう等、募集情報(本校の教育内容)の見せ方を工夫する。 (説明会の参加人数(前年比5%増))	A		②-2 京都、梅田、阿倍野、学校で3回と動画による説明会を実施した。	②-2 説明会・各ブース等で本校教育内容の理解を深めてもらう等、募集情報(本校の教育内容)の見せ方を工夫する。
14 学校評価の実質化	①-1 ICT教育を中心に各教科の授業研究を推進する。各教科の公開授業を行い、教員、生徒のアンケート結果を基に、より効果的な内容を検討する。 (公開授業指導案、教員及び生徒アンケート結果における満足度75%以上)	A	A	①-1 多くの教科で公開授業・研究授業を行った。特に国語科では、全国国語研究大会奈良大会で研究授業の発表を行った。ICT教育の推進に関しても常に情報交換を行い、各教科推進した。	①-1 ICT教育を中心に各教科の授業研究を推進する。各教科の公開授業を行い、教員、生徒のアンケート結果を基に、より効果的な内容を検討する。
	①-2 各教科授業アンケートを継続実施するとともに、その結果を踏まえ自己評価を実施する。 (授業アンケート結果又は結果報告書)	A		①-2 各教科で授業アンケートを実施した。できる人から、デジタルによるGoogleフォームを使ったアンケートを実施した。アンケート結果については、自己評価し、教科会で共有している。	①-2 各教科授業アンケートを継続実施するとともに、その結果を踏まえ自己評価を実施する。

評価項目	具体的目標・方策 及び評価指標 ※（ ）内は評価指標	自己評価結果		評価結果の分析 (評価の観点、理由)	今後の課題・改善方策
14 学校評価の実 質化	② 学校関係者評価委員会 を開催し、評価結果を踏ま え対応可能な内容を実行す る。 (学校関係者評価において 指摘された項目の改善の進 捗状況)	A	A	② 5月13日に学校関係者評価委員 の方々にご来校いただきご意見をいた だいた。	② 学校関係者評価委員会 を開催し、評価結果を踏まえ 対応可能な内容を実行する。
15 経営安定化策 の強化	① 引き続きさくら連絡網を 活用することと、どうしても発 生する紙資料の質の見直し により、印刷費の削減を実 現する。 (印刷費の節減及び教員の 作業の軽減)	A	A	① さくら連絡網を活用し、従来印刷 して配布していた案内や冊子をPDFで配 布した。	① 引き続きさくら連絡網を活 用することと、どうしても発生 する紙資料の質の見直しによ り、印刷費の削減を実現す る。
	② 令和7年度中学校入試 において、9クラス編成を実 現させる。 (クラス数(目標値:9クラ ス))	B		② 少子化等の影響を受け厳しい入試 となった。定員を確保し、令和7年度中 学入試の結果、入学者は313名、10クラ ス編成となった。	② 令和8年度中学校入試に おいて、9クラス編成を実現さ せる。

3. 学校関係者評価

学校関係者評価実施日：令和7年5月9日

学校関係者評価委員会委員：体育・文化後援会長、育友会副会長、体育・文化後援会副会長（2人）、小学校長

意 見	改 善 方 策
「12. 安全管理・保健管理の実施」について自己評価が全て「A」となっているが、4月10日の落雷事故を受けて評価が「A」であるといろいろ意見が出てくるのではないか。「B」評価にすると学校として何か不都合があるのか。	貴重なご意見として、今後の学校運営に反映させていただきたいと考えています。今回については、令和6年度の学校評価であり、落雷事故は令和7年度に発生したことであるので、学校評価としては、変更をせず貴重なご意見として記載させていただきたいと思います。落雷事故に関しては、専門家を招いて調査委員会を発足し、ご意見をいただいたうえで避雷針等の設備が必要である場合は、工事を行い、また、それとは別に「AED」などの増設も考えております。雷検知器などの機器も存在していますが、電磁波の乱れを検知するもので、スマートフォンを近くに置くだけで警報がなる仕組みの物など、現実的でない場合もあるため、法人とも相談しながら生徒の安全管理に努めていきたいと思っています。